

iPS 細胞研究を加速するための当面の進め方について(案)

平成20年02月26日

iPS 細胞研究 WG

iPS 細胞研究WGは、iPS 細胞研究の推進のための環境整備について、検討するために本年1月10日から検討を開始した。今回、京都大学山中教授を中心とし、参加する iPS 細胞関連研究者の英知を結集できる研究体制の早期構築を目指すための方策及びそのための国の支援に絞って、取り急ぎ措置すべきことを中心に、iPS 細胞研究を加速するための当面の進め方を以下のとおりまとめた。

<当面の措置>

・京都大学に設立された iPS 細胞研究センターを中心とし、関連研究者の英知を集めるため、例えば、iPS 細胞の提供や共同研究契約締結等を通じて円滑な共同研究を行うための体制整備を行うなど、日本全体で総合的に iPS 細胞を用いた研究を加速する。その際、特に iPS 細胞のリアルタイムの提供を重視する。

なお、共同研究の体制整備に当たっては、将来の包括的な研究組織への円滑な移行に配慮することが望ましい。

・また、公的バイオリソース機関と連携し、iPS 細胞の幅広い研究者への提供により、関連研究の拡大を図る。

<将来構想>

- ・山中教授を中心として、全国の関連の研究者が協力して研究を行えるような包括的な研究組織を、平成21年度のなるべく早い時期をめどに、立ち上げることが望ましい。
- ・包括的な研究組織に由来する、または当該組織が実施許諾を受けているiPS細胞の研究に関連する知的財産権について、その情報を共有し、関連の研究者相互で円滑に利用できるように運用することが望ましい。また、事業化に向けた活動を円滑に進めるため、例えば、知的財産権のライセンスの一括管理等、知的財産権を戦略的に管理する体制についての検討を行うことが望ましい。

また、知財から発生する収益の特許権者等への分配方法については、ライセンスの管理・運用ルールとは別途、特許権者等の関係者間で協議して決めることが必要である。

<国の支援>

- ・国際的に遜色のない優れた研究環境を実現するため、研究費、施設整備費を含めて、必要な支援を行う。
- ・海外での特許確保促進等の知財戦略を進めるための人的、資金的支援を強化する。
- ・iPS細胞研究のような我が国が先端を走り、国際的に競争が厳しい研究を機動的に支援できるような新しい研究資金の仕組みを検討する。

＜臨床研究に向けた進め方＞

- ・臨床研究に向けて、研究の進展・進捗に合わせ、迅速に指針、基準等の整備を実施する必要があり、今後とも、基礎的な研究も含め、iPS 細胞に関する研究を推進し、知見を収集した上で基本的な考え方を整理する等、同時平行的に速やかな取り組みを促す。

＜今後の検討＞

- ・今後は、iPS 細胞研究全体の方向性、知財戦略、産業化の促進に向けた取り組み、及び国際競争と協力に関することを含めて、検討を続けて、6月頃をめどに、全体的な推進方策をとりまとめる。